

雲北陵月報

No. 478

令和7年6月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

第63回島根県高等学校総合体育大会 第3回中学校出雲ブロック大会

出雲北陵生 躍動の夏!!

なぎなた部

時 5月31日
於 本校 黎明館

〈演技競技〉
優勝 吉田千秋(14轉)・安田結衣(23組)
2位 曾田小夏(24組)・齋藤桜生(13組)

〈女子個人試合〉
優勝 安田結衣
2位 曾田小夏
3位 吉田千秋

〈男子個人試合 ※公開競技〉
優勝 岡田一之介(24組)
2位 田淵光流(24組)

団体は本校、演技2チーム、女子個人4名が7月31日から出雲市で開催されるインターハイに出場する。

第31回中国高等学校なぎなた選手権大会

時 6月14日
於 出雲だんだんとまとアリーナ

〈演技競技の部〉

ベスト8 曾田小夏・安田結衣組
3回戦敗退 吉田千秋・齋藤桜生組
〈女子個人の部〉

2位 安田結衣
3回戦敗退 曾田小夏、吉田千秋
1回戦敗退 齋藤桜生

〈男子個人の部〉
ベスト8 岡田一之介
2回戦敗退 田淵光流
〈団体の部〉 優勝



○大会総評
今大会は団体で5年振りに優勝することができた。女子個人の部でも安田が2位と奮闘し、地元インターハイへ向け弾みをつけることができた。男子も昨年度より成長した試合を見せてくれた。今大会の反省を生かし、地元インターハイへ向け稽古に励みたいと思う。また、地元開催にあたり、多くの方々準備・運営でお世話になり、多くの応援をいただきました。有難うございました。(顧問 井上美代)

女子ソフトテニス部

時 6月5〜7日
於 松江総合運動公園

〈団体戦〉 優勝(2年連続)
メンバー(杉谷・高野・今田・栗原・落合・森田・井上・水永)

2回戦 3-10 大社
3回戦 2-10 出雲商業

準決勝 2-10 松江西
決勝 2-10 石見智翠館

〈個人戦〉
2位 杉谷 皐(34大)・高野愛未(34大) ペア
3位 今田 心(13轉)・栗原奈々(35転) ペア
5位 落合 遥(23組)・森田早貴(24組) ペア
6位 井上心々奈(23組)・牛尾真緒(12轉) ペア
4ペア インターハイ・中国大会出場
B8 水永成実(13組)・曾田珠凜(23組) ペア
B24 今川 碧(35轉)・那須こほる(34大) ペア
2ペア 中国大会出場

○大会総評
プレッシャーのかかる試合を戦い抜き、個人・団体共に全国大会・中国大会の出場権を獲得できたことは大きな成果であった。部員それぞれがおかれた立場でよく踏ん張り、全員で揃った団体優勝であった。各種上位大会で上位進出を目指してより一層精進していきたい。たくさん応援本当に有難うございました。(顧問 金森 快)



卓球部

時 6月5〜7日
於 益田市市民体育館

〈男子団体〉 2位
〈男子シングルス〉
2位 大村 心(32西)
3位 肖 駿駿(33東)

〈男子ダブルス〉
2位 三好蒼空(22北)・金丸 陽(22北) 組
○大会総評

最大の目標であった団体優勝はならなかったが、個人戦で奮起し、シングルス2名、ダブルス1組が下関市で開催されるインターハイの出場権を得ることができた。インターハイに向けて万全の準備をしていきたい。(顧問 古瀬泰之)

男子ソフトテニス部

時 6月5〜7日
於 松江市宮庭球場

〈団体戦〉 2位
(15年連続中国大会への出場権獲得)
メンバー(川角・岡田・山下・高木・三上・河野・三島・木村)

2回戦 3-10 大田
準々決勝 2-10 益田翔陽
準決勝 2-10 浜田
決勝 0-2 松江工業

〈個人戦〉
3位 三島綾太(22組)・木村一心(13東) ペア
1ペア インターハイ・中国大会出場
B16 川角光夢(32組)・山下柗人(25東) ペア
高木映瑠(24組)・三上瑛大(25組) ペア
河野穂希(23組)・川原 真(24大) ペア
B24 高野幸大(23大)・岡田隆聖(31組) ペア
佐藤宏祐(14組)・倉本晃汰(22組) ペア
5ペア 中国大会出場



個人戦3位の三島(右)・木村ペア

○大会総評
団体、個人共、予選大会で優勝し挑んだ県総体であったが、悔しい結果となった。団体での全国出場という目標は達成できなかったが、3年生を中心に様々な面で成長できたことはチームにとつて大きな力となった。新チームにはこの悔しさ、3年生が残してくれたものを大切にし、これからの上位大会、その後の大会に向け精進していきたい。3日間たくさんの方に応援に来ていただき、有難うございました。(顧問 佐々木雄志)



男子バスケットボール部

前期 5月29～6月1日
 於 県立浜山体育館
 後期 6月5日
 於 島根県立体育館

2回戦 本校 102-31 江津工業
 準々決勝 本校 90-51 明誠
 準決勝 本校 66-71 松江西
 3位決定戦 本校 71-51 松江北
 3位 中国選手権大会出場

○大会総評



近年、県総体で思うような結果が残せていないだけに、優勝を目指し貪欲に挑んだ。準々決勝までは3年生を中心に危なげなく勝ち上がったが、準決勝の松江西戦では、流れに乗り切れず苦しい展開となった。後半2点差まで追い上げる場面もあったが、勝負どころでミスが続き悔しい敗戦となった。後期日程で松江北と3位決定戦を行い、前半は僅差で折り返したが、後半はディフェンスの強度を上げ、リバウンドから走るバスケットで相手を突き放した。

インターハイ出場は叶わなかったが、全国の舞台で勝負するために課題を克服できるように意識し、これからも日々、精進していきたい。

当日は校長先生をはじめ、保護者、OBなど、多くの方からご声援いただき有難うございました。(顧問 手島幹人)

女子バスケットボール部

5月30-31日
 於 県立浜山体育館

2回戦 本校 78-53 出雲
 準々決勝 本校 54-68 出雲商業
 ベスト8

○大会戦評

出雲商業戦では、前半から随所に思い切りのいいプレイが見られたが、前半は24対38の14点差で終えた。後半の第3Qでは14対11と相手チームに勝る点数を得点するなどしたが、前半のリードを縮めるまでとはいかず、悔しい敗戦となった。しかし、3年生を中心に粘り強く頑張り、本校らしさの見られた試合であった。当日は保護者の皆様をはじめ、多くの方々よりご声援をいただき誠に有難うございました。(顧問 篠原勝利)

陸上競技部

5月29～6月1日
 於 浜山陸上競技場

陸上競技部で最も力を入れている県高校総体に、今年は3年生部員がいないため、2年生を中心に短距離、中長距離、跳躍、投てきと全ての種目に挑戦した。

春先の大会で全員が自己記録を更新していたものの6位入賞の壁は厚く、目標としていた中国大会出場は叶わなかった。この結果を真摯に受け止め、また一年頑張っていきたい。

会場では保護者の方々、卒業生の皆さんにたくさん応援をいただき本当に有難うございました。(顧問 別所美喜子)

テニス部

6月5-6日
 於 浜山公園

(男子団体)

1回戦 本校 0-3 平田
 (男子シングルス) 1回戦敗退
 (男子ダブルス) 1回戦敗退
 (女子シングルス) 2回戦敗退

○大会総評

男子は、団体・個人戦共すべて初戦で敗退したが、3年生は試合ですべてを出し切ってくれ、感謝したい。残る1・2年生は、その意志を受け継ぎ一年後に向けて頑張るしかない。女子は、初戦突破し次のシード選手に敗れたが、悔やまれる内容であり、次の国スポ県予選で頑張りたい。保護者の皆様には応援していただき有難うございました。(顧問 石川剛巨)

サッカー部

5月30日
 於 益田陸上競技場

1回戦 本校 1-9 松江東
 (前半0-4 後半1-5)

○大会総評

県リーグ1部に所属する松江東は、個々の技術、連携など、何もかも本校を上回る相手だった。前半の早い時間に得点を許して勢いに乗れず、相手のリズムを狂わせることができなかった。それでも後半には何とか一点を取りこぼし、これがむしやりに挑み続け、数少ないチャンスを得点に結びつけることができた。結果は大敗となったが、ベンチメンバーやマネージャーを含めた14名で奮い立った。次は選手権に向けて、個・集団の

野球部

5月23日
 於 平田愛宕山球場

1回戦 本校 8-7 出雲農林
 2回戦 本校 6-11 三刀屋

○大会総評

出雲地区大会が開催された。雨天の影響ですべての日程を消化することはできなかったが、夏の選手権予選に向け最終チェックができたと感じた。2回戦は雨天順延し、8時試合開始予定が13時開始に大幅変更がされるなど、調整の難しさを体感した大会となった。選手達はイレギュラーな調整でも集中力を切らさずに最後まで諦めず戦い抜いた。当日は足元の悪い中、保護者の皆様には球場に足を運んでいただき有難うございました。(顧問 畑 宗一郎)



レベルを更に高めていきたい。応援有難うございました。(顧問 今川恵人)

写真部

「写真甲子園2025」中国ブロック審査会
第32回全国高等学校写真選手権大会
「写真甲子園2025」中国ブロック審査会
が6月7日にリモートで行われ、本校
から馬庭葵琳(34曲)、福島 和(33曲)、原
昊夢(34曲)の3名が選手として出場し
た。撮影・セレクト・構成・プレゼン準
備を丁寧に行って臨んだ大会であったが、
残念ながら惜敗し、本戦出場にあと一歩
届かなかった。3年生の意志と想いは次
世代が引き継いでくれるものと固く信じ
ている。高い壁に果敢に挑戦してくれた
選手達に心から敬意を表したい。今後と
も本校写真部の応援をよろしくお願い致
します。

高文連春季写真コンクール 特選13点、入選25点入賞!

本校からは25人が15出品し、13点が特
選に入賞した。13点中9点が3年生の作
品のため、1・2年生で合わせて4点が
特選ということになる。今後の1・2年
生の成長を期待したい。秋季コンクール
に向けて本気で写真に向き合って欲し
い。特選は以下の通り。(作品番号順)
「二月の不安」 持田一真(13曲)
「虚像」 重岡来幸(14曲)
「今にも消えそうな」 吉田麗叶(23曲)
「母に連れられて」 本田 陽(31曲)
「そよぎ」 福島 和
「ふわふわ」 福島 和
「軌跡」 西尾晃大(34曲)
「水鏡」 原 圭吾(34曲)
「光散る」 原 昊夢
「興津津々」 馬庭葵琳
「見守る」 馬庭葵琳
「蜘蛛の糸」 馬庭葵琳

(顧問 村上 学)

合唱部

第64回島根県合唱祭

於 6月8日
大社文化プレイスうらら館
本校合唱部は、全
日本合唱コンクール
課題曲「聖なる日」
NHK全国学校音楽
コンクール課題曲
「惑星をぞろ」の2曲
を演奏した。特に今
回は「聖なる日」とい
うラテン語のアカペ
ラの曲に挑戦し、初
めての発表の場とな
った。本番では、適度な緊張感の中、日
頃の練習の成果を十分に発揮することが
でき、ホール一杯に北陵サウンドを響か
せることができた。他団体の演奏も聞く
こともでき、いい刺激を受ける機会とな
った。更にコンクールに向けて、演奏の
質の向上を図るべく、日々の練習に取り
組むたい。
(顧問 布野浩志)



島根県合唱祭

吹奏楽部

出雲地区吹奏楽祭

於 6月7日
出雲市民会館大ホール
【演奏曲目】
・ディズニー・メドレー
・Arr.:星出尚志・J.ヒギンス・M.ブラウン
出雲地区の吹奏楽部が集う吹奏楽祭が
開催された。いずれの学校も新メンバ
ーとなり、コンクールへ向け熱演を披露し
た。

本校は、全出場団体で唯一となるステ
ージドリルを披露した。短い練習期間で
はあったが、部員達は観客の皆様に乗し

美術部

高文連出雲地区美術講習会・コンクール

於 5月28〜30日
国立三瓶青少年交流の家周辺
出雲地区の高校の美術部員が参加し、
3日間に渡って国立三
瓶青少年交流の家周辺
を風景写生した。本校
は1・2年生21名が参加
し、新緑の三瓶山で伸び
伸びと油彩・水彩の絵画
制作を行うことができ
た。最終日には優秀作品
7点が選出された。(顧問 石倉 正)



高文連出雲地区美術講習会・コンクール



第72回全国高校ワグネル競技大会島根県予選

ある。全国大会を目指し、部員一同日々
精進していきたい。(顧問 竹内康貴)

インターアクトクラブ

中海・宍道湖 一斉清掃

於 6月8日
宍道湖周辺(湖遊館)
このイベントは、中海と宍道湖が平成
17年に「ラムサール条約」に登録されて
以来、境港・米子・安来・松江・出雲の
5市で、6月の「環境月間」にあわせて
毎年実施されている。
出雲市では、宍道湖畔の斐川会場(出
雲空港周辺)と平田会場(湖遊館周辺)
に分かれて清掃活動をした。インターア
クトクラブは平田会
場で生徒11名が参加
した。
午前8時、平田湖
遊館駐車場に出雲市
役所職員や企業、近
隣の家庭からの参加
者約30人が集結した。
宍道湖と斐伊川の合
流点から、湖岸沿いにゴミ袋と火バサミ
を持ち、1時間ほどの清掃作業をした。
ペットボトルやスナック菓子の袋、発砲
スチロールなど多くのゴミを拾うことが
できた。
(顧問 尾添喜行)



中海・宍道湖 一斉清掃



令和7年度 全国高等学校ワグネル競技大会島根県予選

キャリア教育関西研修旅行

時 6月9～11日
於 関西各地(大阪・兵庫・奈良)



2泊3日の日程で、高校2年生キャリア教育関西研修旅行を実施した。企画・運営を一畑トラベル様にご協力いただき、生徒が将来の進路を意識したプログラムを実践することができた。また、2日目には研修先で「学食」体験をし、学生生活の一部を感じてもらった。

研修プログラム①

「イブニングセミナー」講師に下村啓介様をお招きし、「進路選択」についてご講演いただいた。生徒は下村先生の話をしっかりと聞き、進路選択のために今何をすべきかを考える機会となった。



研修プログラム②

「上級学校・企業施設訪問」クラスごとに大学・短大・専門学校、企業・施設を訪問した。訪問先では模擬授業を受講させていただき、学びを深めると共にいい経験になった。



「人と未来防災センター」

2グループに分かれて、震災経験のある語り部の方から講話をしていただいた。30年近く前になる阪神淡路大震災の甚大な被害の様子から、現在の復興、そして今を生きることに



ついてご講演いただいた。生徒は防災に対する心構えだけでなく、多くのことを学んだように思う。



この研修を通して学んだことや気づいたことを、将来の進路の実現につなげてくれることを期待したい。
(2年主任 篠原勝利)

サンタクララ市より高校生が来校

6月20日(金)、出雲市国際交流事業で市に滞在中のサンタクララ市ウィルコックス高校1年生のイーサン・ウィ君(16歳)が来校した。出雲市には17日から26日まで滞在し、1年4組の春日愛斗(出二)の家庭がホストファミリーを務めている。当日は朝礼時から1年4組教室に入り、生徒達と授業はもちろん、一緒に昼食も楽しんだ。



教務部 人権教育HR実施

5月26日、1・2年生HRの時間に人権教育を実施した。1年生のテーマは「誰もが充実した学校生活を送るために」で、一人ひとりの思いを知り、誰もが努力し力が発揮できる学級・学校にするという指導の下、各クラス担任が身近な人権教育についてHR授業を行った。

2年生のテーマは、「様々な価値観を尊重できる人になろう」で、自他を大切にできる集団をつくるために身の回りの問題点に気づく感性を養うことを目的に行った。授業の中で自らの意見を述べたり、級友の意見に耳を傾けて深く考える場面もあった。

本校の校訓「柔しく剛く(やさしくつよく)」は、まさに人権教育の根幹に関わる意義を持っている。生徒の皆さんには、日々の学校生活の中で、更に人権教育を高めていただきたい。

高校PTA役員

5月22日、本校でPTA総会が開催され、今年度の新役員は次の方々に決まりました。

会長	永田 数子 様(35)
副会長	石原 稔功 様(23)
副会長	三島 一男 様(14)
監事	石賀 裕二 様(32)
監事	遠藤 正博 様(23)
監事	佐藤 大樹 様(13)

中学校

第3回島根県中学校出雲ブロック大会結果

卓球部

時 6月3・4日
於 出雲市総合体育館
【男子団体】優勝(リーグ戦 7勝0敗)
【男子シングルス】

- 優勝 岡本悠希(中2)
 - 2位 中司良心(中2)
 - 3位 小林麟太郎(中3)、石塚大智(中1)
 - ベスト8 住田光亮(中2)、今福瀧司(中1)
 - 福島陽希(中1)、清水寛生(中1)
 - 9位 隈元慶真(中2)、金田悠希(中1)
- 【男子ダブルス】
優勝 白根洸太(中3)、中村来哉(中2)
- 大会総評
右記の選手が県総体へ出場する。夏に向けて頑張っていきたい。
(顧問 相場翔太)

野球部

時 6月4～6日
於 平田球場・浜山少年球場
1回戦 本校 0-15 浜山
○大会総評

初回に先制点を奪えず相手に流れを渡してしまつた。その結果、中盤に一気に点差を広げられてしまい敗れた。3年生5名を中心に最後まで必死に食らいつこうとプレーしてくれた。この経験を糧に次の目標に向けて成長してもらいたい。皆さんの応援有難うございました。
(顧問 酒井甲太郎)



男子バスケットボール部

時 6月3・4日
於 カミアリーナ
予選リーグ
1試合目 本校 68-46 出雲二
2試合目 本校 119-15 出雲一
予選リーグ1位(2勝0敗)
決勝戦 本校 62-44 BLAZE BULLS
優勝(2年連続) 県総体出場
○大会総評



決勝戦では、前半自分達のプレーができなかったが、ディフェンスで粘り、後半から調子を取り戻すことができた。県総体ではもう一度チームとしてやるべきことを徹底し、優勝を目指して頑張りたい。ご声援有難うございました。
(顧問 多々納厚比古)

女子バスケットボール部

時 6月3・4日
於 島根県立浜山体育館

- 〈予選トーナメント〉
- 1試合目 本校 57-39 河南
- 2試合目 本校 44-50 IZUMO DREAMS
- 〈順位決定リーグ〉
- 1試合目 本校 64-38 平田
- 2試合目 本校 61-59 出雲三
- 3位 県総体出場

○大会総評

昨年の悔しさを糧に県総体出場を決めることができた。今後、目標達成に向けた厳しさと徹底力を追及しながら、引き続き精進したい。ご声援有難うございました。



(顧問 和田拓真)

第1回合同道徳

時 6月2日
於 北陵ホール
講師 手銭修司副校長



今回は、「日本はなぜ日本人って何?」日本人の魂・精神とは?」をテーマに、日本人の良いところや世界の中の日本について手銭修司副校長先生のお話を聞きました。

【生徒の感想】

以前の日本は技術があっても無機質と思われていた。しかし、今は国際競争、経済格差、気候変動などに対応するために頑張っていると世界に認められるほど成長してきている世界に思った。日本は世界から見るとおかしいくらいに秩序を愛

し、沈黙を選び、他者のために動く。例えば災害の時の炊き出しも順番にもらうために並ぶ。外国では順番を守ることがない。日本の和の精神は調和や平和を意味しており、人々が協力をする。日本人は戦いにおいても卑怯なことはずけず正直に正義を貫く。とてもかっこいいと思つた。最近、日本の当たり前である給食当番や掃除当番などの日本式教育が外国に取り入れられているようで驚いた。日本の良いところがどんどん世界に広がっていき、自分が日本人であることを誇らしく感じた。その気持ちを大切に行動していきたい。 福島陽希(4年)

第2回校外講師特別講座(座禅と講話)

時 5月24日
於 一畑寺



今年度も歴史と由緒ある一畑寺を訪問し、管長の飯塚大幸様のお世話による座禅と講話の会を実施した。非現実の静寂に身を置き、警策の音が響く中、自己と向き合う貴重な時間を持つことができた。

出雲科学館理科学習(中学2年)

時 5月29日
於 出雲科学館



中学2年生を対象とした今年度第1回の出雲科学館理科学習が「化学変化と原子・分子」のテーマで実施され、24名が受講した。まずサイエンスホールにおいて、水素と酸素の混合気体を100mのホース内で爆発させ、音と光を発生しながら水が発生する実験、ダイヤモンド

を燃焼させて二酸化炭素が発生する実験などの説明をしていただいた。次に実験室に移動し、班ごとにマグネシウムの燃焼実験を行った。生徒達は協力し合い、積極的に実験に取り組み、実りある理科学習になった。

交通安全教室開催

時 5月19日
於 北陵ホール



出雲警察署交通総務課 課長 鐘推敏行様から、交通安全に関する意識向上を促すため、日頃の登下校での安全確保を生徒達にはしてもらいたい。また、教職員をはじめ、大人達の交通安全に対する意識向上も高めていく必要があると感じた。

第1回合同礼法

時 6月11日
於 北陵ホール

中学1年生を対象に、礼法主任である井上美代先生を講師として、今年度第1回目となる合同礼法を開催した。まず創立者、創立記念日、校訓について生徒に質問しながら確認された。校訓「優しく質問しながら確認された。校訓「優しくは「他人の立場にたつて行動すること」であり、「剛く」は「自分に厳しく行動すること」であることを改めて学んだ。次に「礼儀」と「作法」について、「礼儀」は相手を大切にすることを示す動作・行動の部分であること、それをつなげたものが礼法であり、校訓と通ずるものであることを学んだ。日頃の具体的な生活の中での

例を挙げ、わかりやすく説明され、生徒も自分達の生活を振り返る良い機会となった。

キャリア教育(進路学習)

時 6月9日
於 中高校
島根県立大学出雲キャンパス

中学2年生

講師 JICA 海外協力隊

演題 世界のこともっと知ろう 舛本才智 様

中学3年生

講師 島根県立大学看護学科の先生方、

演題 大学の体験学習を通して 世界の広げる 学生の皆さん

中学2・3年生を対象にキャリア教育研修を実施した。2年生は異文化体験ワークショップ、JICA 海外協力隊の活動の様子などを通じて、固定観念を外し、視野を広げることの大切さを学んだ。3年生は聴診体験や車椅子体験をはじめ、普段は体験することができない大学での研修を通して、今後のキャリアを考えるうえでの参考になるだけでなく、将来に對しての希望や楽しみな気持ち芽生えた有意義な時間となった。



作品と研究

県総体を終えて

卓球部

福田 健人(25歳)

県総体は、私達にとつて大きな節目となりました。団体戦では15連覇がかかると、決勝で敗れ、ついにその記録が途切れしました。試合が終わった瞬間、主将として、そして一選手として、悔しさと申し訳なさで胸がいつぱいになりました。仲間とともに積み重ねてきた日々を思い返すと、涙が止まりませんでした。

個人戦でも、私はシングルス・ダブルスともに目標としていたインターハイ出場を果たすことができず、痛感すると同時に、自分の甘さや向き合ふきつかけにもなりました。

しかし、そんな中でもチームからはシングルスとダブルスでインターハイへの切符を手にした仲間達がいまいます。私はその仲間達が、全国の舞台で力を出し切れるよう、全力でサポートしたいと思えます。プレーはできなくても、チームの一員としてできることはたくさんあると思っております。

この悔しさを忘れず、私は次のステージに向けてまた歩き出します。敗れたからこそ見えたものがありました。主将として最後までチームと向き合い、悔いのない夏にしたいと思います。

なぎなた部

安田 結衣(23歳)

このたび、7月31日から8月3日までだんだんとまとアリーナで行われる

全国総体に出場させていただき、今年度は地元での開催となり、大会前から高校生活動推進委員会のみならず、出雲市実行委員会のみならずが大会を盛り上げるために活動してくださっています。また、地元の高校生のみなさんが大会を支えてくださることに感謝しています。

このインターハイという舞台は大きな挑戦であり、同時に自分の成長を試す絶好の機会でもあります。試合では結果だけでなく、その過程でどれだけ自分の力を出し切れるかが大切だと思います。緊張やプレッシャーがありますが、先生や先輩達に日頃から教わっていることを常に意識し、試合に挑みたいのです。数々の大会で結果を残してこられた先輩達のように、自分に厳しく、仲間を大切にしながら一戦一戦勝ち上がりたいです。

そして、個人の技術向上だけでなく、新チームとして一丸となつて戦うことも重要だと思えます。練習では互いにアドバイスをし合い、励まし合いながら少しずつ成長しています。大会が近づくと、辛いこともあると思いますが、皆で一緒に頑張っているからこそ乗り越えられると信じています。

私が目指すのは、ただの参加者ではなく、試合で結果を残し、周りの期待に応えることです。大きなチャンスであり、大きな責任でもある地元インターハイという大会で、私達が結果を残すことが何よりの恩返しになると感じています。その期待に応えるために、最善を尽くそうと思えます。

男子ソフトテニス部

川角 光夢(32歳)

僕達男子ソフトテニス部は、6月5日から7日にかけて松江総合運動公園テニスコートで行われた県総体に出場しました。団体戦では惜しくも準優勝でインターハイ出場の権利を手で

ませんでした。個人戦では1ペアがベスト4に入賞しインターハイ出場の権利を手に入れました。ほかにも計6ペアが中国大会出場を決めました。個人戦では、向かっていけるように攻めの姿勢で臨むことを意識しました。しかしミスが重なり相手に流れが行ったときに受けてしまい、負けてしまいました。団体戦では、個人戦の悔しさを胸に、攻める姿勢を変えずに向かってくることを意識しました。試合に出る選手、コート外で応援する選手みんなが一丸となつて戦えました。決勝戦では、松江工業と対戦し、勢いを持っていかれ、流れを戻せず負けてしまいました。

今大会では、精神面でも技術面でも多くの課題が見つかりました。精神面では、初心をもう一度思い出し、向かっていくことを徹底し、冷静な判断ができるように意識して練習に取り組みたいと思えます。技術面では、基礎的なサーブレシーブなど精度の高いプレーが必要だと思えます。また、普段の練習では試合での再現性を高めることを意識して取り組んでいきたいと思えました。

最後に、当日お忙しい中応援に来てくださった保護者の方々、OBの方々、先生方への感謝の気持ちを忘れず、これからの大会では今回以上の結果を出せるように努力していきます。

女子ソフトテニス部

栗原 奈々(35歳)

私達女子ソフトテニス部は、6月5日から3日間松江総合運動公園で行われた県総体に出場しました。個人戦では4ペア、団体戦は2年連続優勝し、インターハイ出場の権利を獲得しました。うまくいった人も、思うようにいかなかった人もいたと思いますが、とにかく暑かった3日間を全員で一丸となつて、最後まで元気に笑顔で戦い抜いたことが一番良かったと思えます。

私はこの大会を通して、チームメイトの存在の大きさを改めて感じる事ができました。個人戦で私達は優勝を逃し、涙を飲みました。そんな中で迎えた団体戦では、絶対にリベンジするぞ！絶対に優勝するぞ！と、みんなが同じ気持ちで同じ目標に向かって挑みました。しかしながら心の片隅には、プレッシャーに押し潰されそうない自分を律することができたのかという不安や怖さもありました。そんな弱気な自分を奮い立たせてくれたのは、紛れもなくチームメイトでした。大丈夫、私達が一番やってきた」という言葉を聞いて、みんなの想いを背負ってみんなのために戦わなければならないと強く思い、最後までやり切ることができました。3年間切磋琢磨してきたチームメイト、ご指導くださった先生方、いつも支えてくれた家族や保護者さん達への感謝の気持ちを胸に、インターハイでは島根県の代表として、私達の目標である団体ベスト8以上を達成できるよう、精一杯頑張ります。応援よろしくお願ひします。

令和7年度春季写真コンクール特選作品
今月の1枚「ふわふわ」
福島 和(33歳)

